

# 企業経営実態調査結果

飯田市産業経済部工業課

## 1 調査概要

- (1) 調査期間 平成28年5月2日(月)～平成28年5月30日(月)
- (2) 調査の目的 企業経営状況、設備投資の動向、採用状況等を調査し、今後の施策に反映するため。
- (3) 調査対象 製造業を中心に抽出した事業所34社に対して、担当職員が質問票及び企業訪問等によるヒアリングを実施。

| －業種別－                |            | －従業員数別－      |            |
|----------------------|------------|--------------|------------|
| 機械系<br>(精密・機器・電子・光学) | 22 (64.7%) | ※平成27年度 調査時点 |            |
| 食品系                  | 8 (23.5%)  | 10人以下        | 2 (5.9%)   |
| その他                  | 4 (11.8%)  | 11人～30人      | 5 (14.7%)  |
| 計                    | 34         | 31～50人       | 2 (5.9%)   |
|                      |            | 51人～100人     | 13 (38.2%) |
|                      |            | 101人～300人    | 6 (17.7%)  |
|                      |            | 301人以上       | 6 (17.7%)  |
|                      |            | 計            | 34         |

- (4) 調査事項 I 売上(受注)高の状況 II 設備投資について  
III 採用者数について IV その他
- (5) 回答結果 調査項目別結果のとおり

## 2 調査項目別結果

### I 売上（受注）高の動向

(1) 最近（4月）の月間売上（受注）高は、昨年の同期（4月）の月間売上（受注）高と比べて、どのくらいとなっていますか。【有効回答数 32 社】

4月の売上（受注）高の状況は、対前年比で「増加」が12事業所（37.5%）、「増減なし」が1事業所（3.1%）、「減少」が19事業所（59.4%）である。売り上げが大幅に増加した企業は、昨年までの業績悪化していた部分が回復基調になった、インフラ関係の海外需要が一時的に増加したことなどが要因である。

※数値は事業所数、（ ）内の数値は構成比

| 増加・減少割合  | 工業系 | 食品系 | その他 | 計             |
|----------|-----|-----|-----|---------------|
| ～10割以上増加 | 1   | 1   |     | 12<br>(37.5%) |
| ～ 9割 増加  | 1   |     |     |               |
| ～ 8割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 7割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 6割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 5割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 4割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 3割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 2割 増加  | 2   |     |     |               |
| ～ 1割 増加  | 2   | 4   | 1   |               |
| 増加・減少なし  | 1   |     |     | 1<br>(3.1%)   |
| ～ 1割 減少  | 7   | 3   | 2   | 19<br>(59.4%) |
| ～ 2割 減少  | 2   |     | 1   |               |
| ～ 3割 減少  | 2   |     |     |               |
| ～ 4割 減少  | 2   |     |     |               |

(2) 今後(6月)の月間売上(受注)高は、昨年の同期(6月)と比べて、どのくらいになると予想されますか。【有効回答数32社】

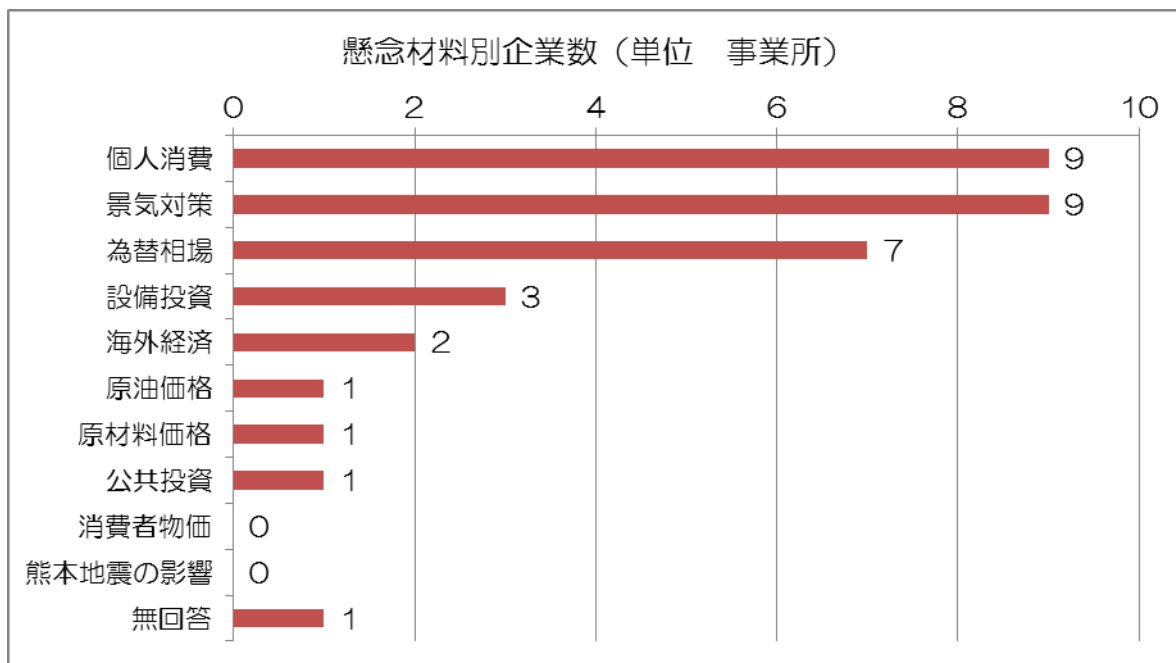
6月の売上(受注)高の予想は、対前年比で「増加」が14事業所(43.8%)、「増減なし」が1事業所(3.1%)、「減少」が17事業所(53.1%)となっている。

※数値は事業所数、( )内の数値は構成比

| 増加・減少割合  | 工業系 | 食品系 | その他 | 計             |
|----------|-----|-----|-----|---------------|
| ～10割以上増加 |     |     |     | 14<br>(43.8%) |
| ～ 9割 増加  | 1   |     |     |               |
| ～ 8割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 7割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 6割 増加  | 1   |     |     |               |
| ～ 5割 増加  |     |     |     |               |
| ～ 4割 増加  |     | 1   |     |               |
| ～ 3割 増加  | 1   | 1   |     |               |
| ～ 2割 増加  | 1   |     |     |               |
| ～ 1割 増加  | 3   | 5   |     |               |
| 増加・減少なし  | 1   |     |     | 1<br>(3.1%)   |
| ～ 1割 減少  | 5   | 1   | 3   | 17<br>(53.1%) |
| ～ 2割 減少  | 4   |     |     |               |
| ～ 3割 減少  |     |     | 1   |               |
| ～ 4割 減少  |     |     |     |               |
| ～ 5割 減少  | 1   |     |     |               |
| ～ 6割 減少  | 1   |     |     |               |
| ～ 7割 減少  | 1   |     |     |               |

(3) 2～3か月先の業績における動向の懸念材料について、最もあてはまるものについて1つお答えください。【有効回答数 34 社】

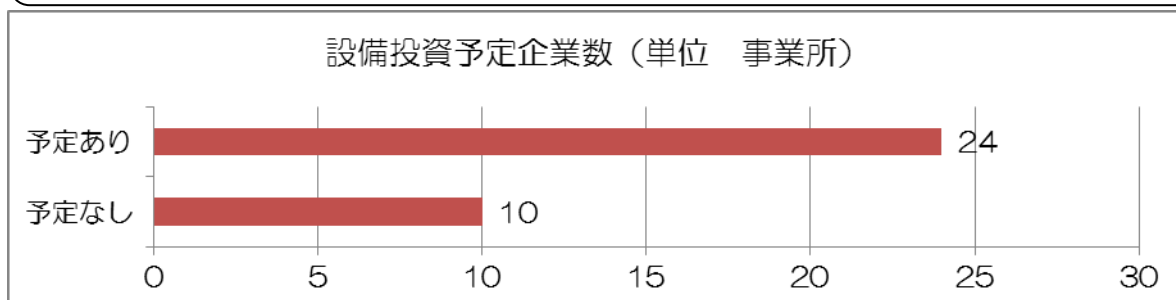
回答は、「個人消費」が最も多く、「景気対策」や「為替相場」が続いている。一方で、「消費者物価」、「熊本地震の影響」と回答した企業はない。



## II 設備投資について【有効回答数 34 社】

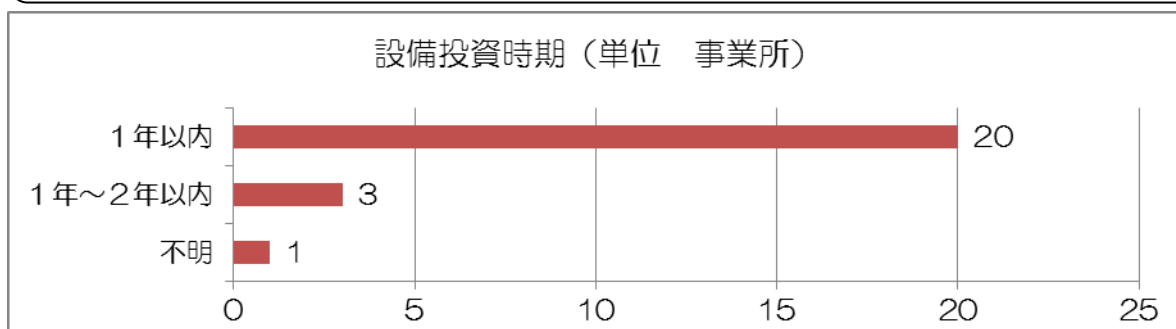
(1) 今後、設備投資の予定はありますか。

設備投資の予定は、「予定あり」が 24 事業所 (70.6%)、「予定なし」が 10 事業所 (29.4%) である。



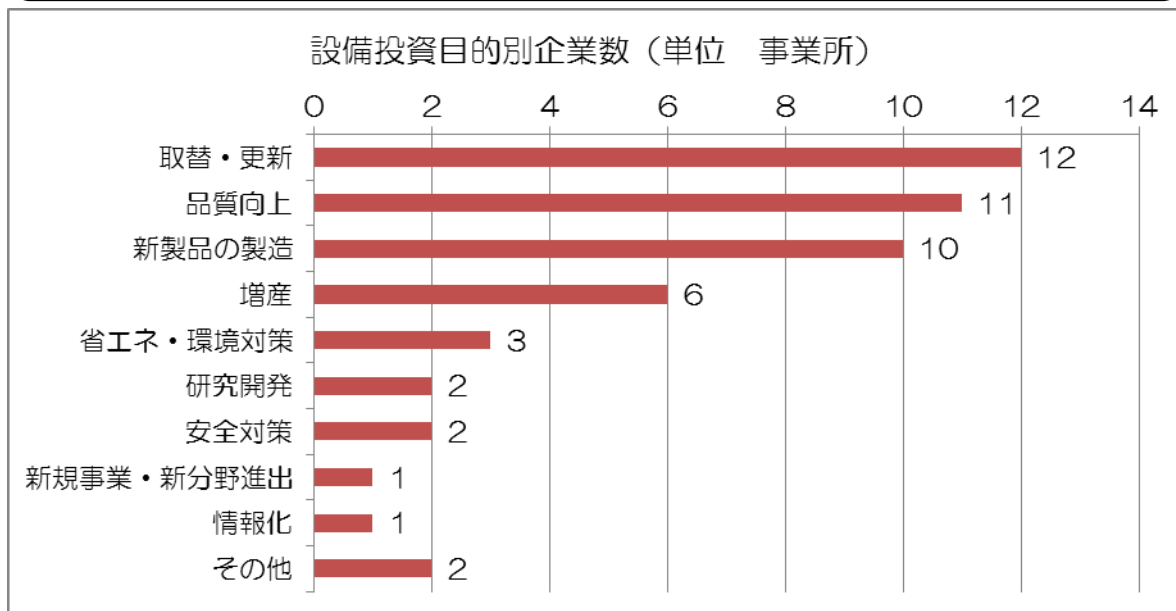
(2) 設備投資を行う時期はいつ頃を予定していますか。

設備投資を行う時期は、「1 年以内」が 20 事業所 (83.3%)、「1～2 年以内」が 3 事業所 (12.5%)、「不明」が 1 事業所 (4.2%) である。



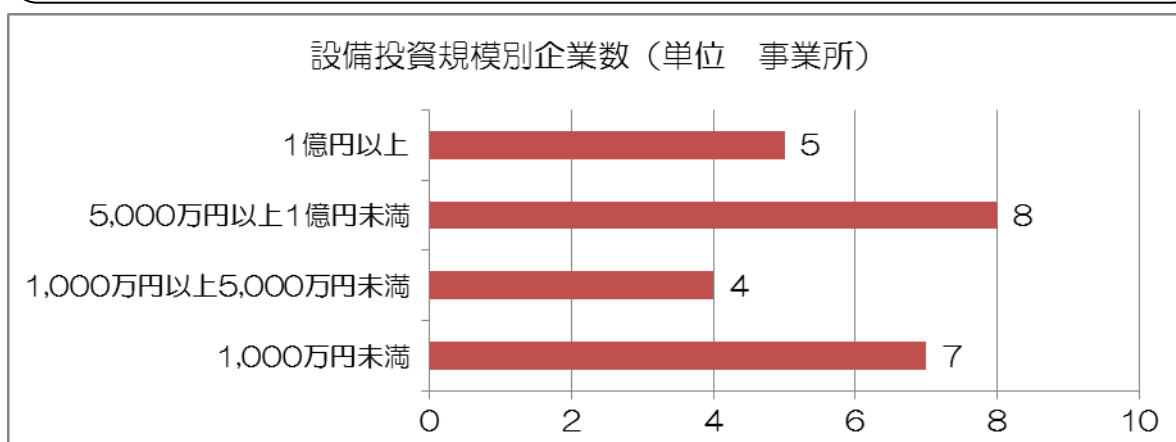
(3) 設備投資はどのような目的で行う予定ですか。(複数回答可)

設備投資の目的は、「取替・更新」が最も多く、「品質向上」、「新製品の製造」、「増産」が続いている。



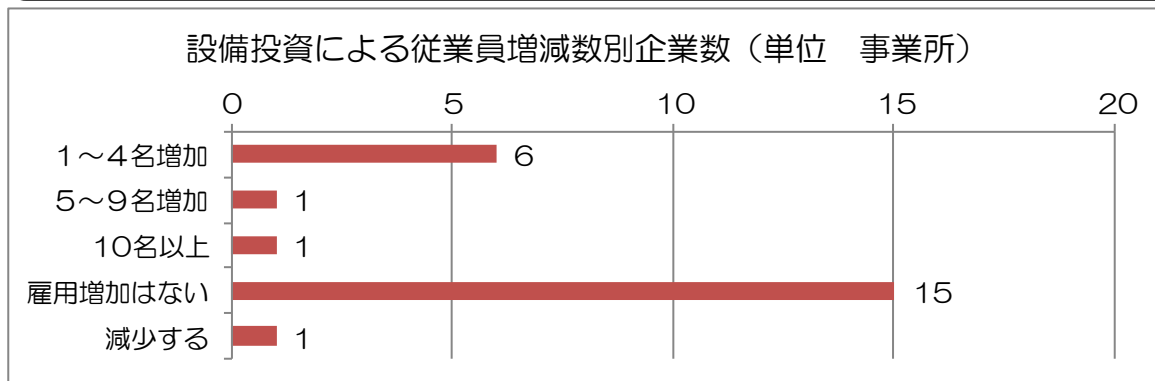
(4) 設備投資額 (総額) は、どの程度を予定していますか。

設備投資額 (総額) は、「1億円以上」が5事業所 (20.8%)、「5,000万円以上1億円未満」が8事業所 (33.3%)、「1,000万円以上5,000万円未満」が4事業所 (16.7%)、「1,000万円未満」が7事業所 (29.2%) である。



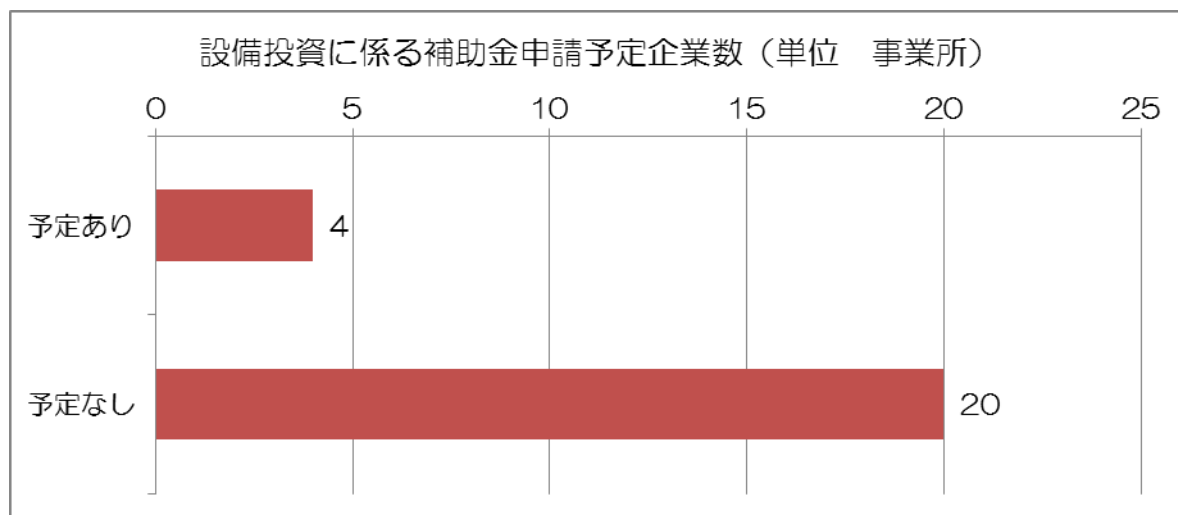
(5) 設備投資による雇用の増加の予定はありますか。

設備投資による雇用の増加ですが、「1～4名増加」が6事業所(25.0%)、「5～9名増加」が1事業所(4.2%)、「10名以上」が1事業所(4.2%)、「雇用増加はない」が15事業所(62.5%)、「減少する」が1事業所(4.2%)である。



(6) 設置投資の際に、国等の補助金活用を予定していますか。

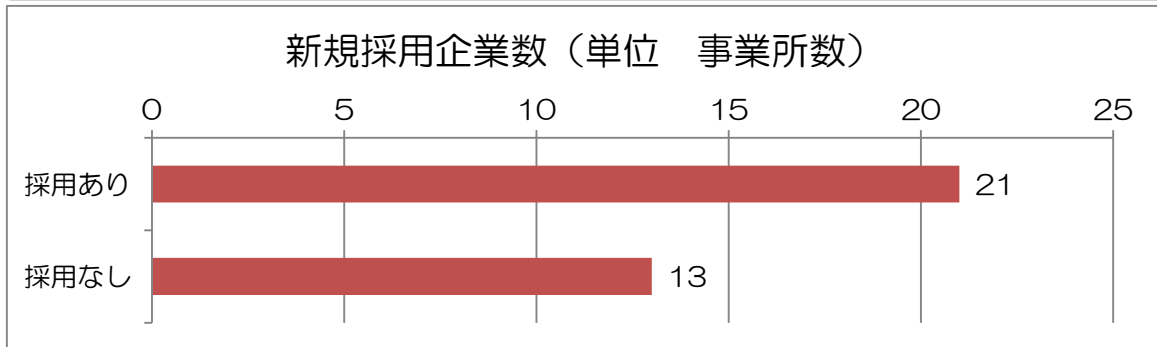
設備投資に係る補助金の活用については、「予定あり」が4事業所(16.7%)、「予定なし」が20事業所(83.3%)である。なお、活用予定の補助金は、「ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」、「中小企業経営支援等対策費補助金(ロボット導入実証事業)」などである。



### Ⅲ 採用について 【有効回答数 34 社】

(1) 平成 28 年 4 月の採用者はありましたか。また、ある場合は、何人ですか。

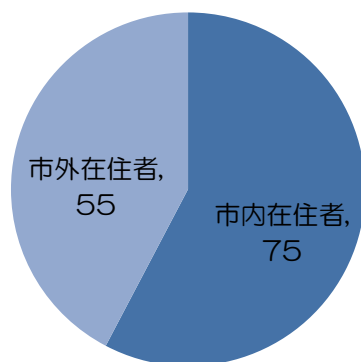
平成 28 年 4 月の新規採用については、「採用あり」が 21 事業所 (61.8%)、「採用なし」が 13 事業所 (38.2%) である。





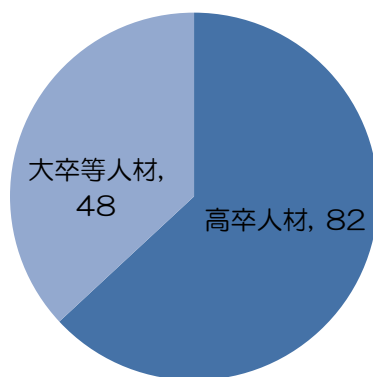
採用者人数の総数は130名であり、そのうち「市内在住者」は75名（57.7%）、「市外在住者」は55名（42.3%）であり、市内在住者の比率が高い。

採用者における市内在住者数及び市外在住者数（単位 人）



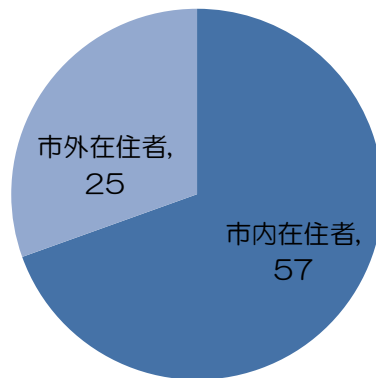
採用者人数の総数は130名であり、そのうち「高卒人材」は82名（63.1%）、「大卒等人材」は48名（36.9%）であり、高卒人材の比率が高い。

採用者における高卒人材数及び大卒等人材数（単位 人）



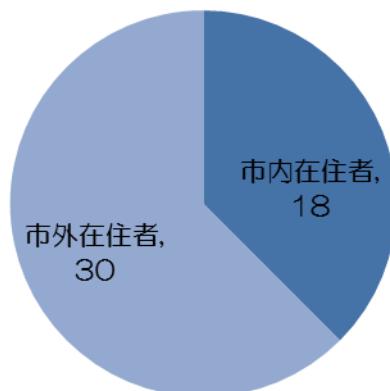
「高卒人材」(82名)における「市内在住者」の採用人数は57名(69.5%)であり、「市外在住者」は25名(30.5%)であり、市内在住者の比率が高い。

高卒人材における市内在住者数及び市外在住者数(単位 人)



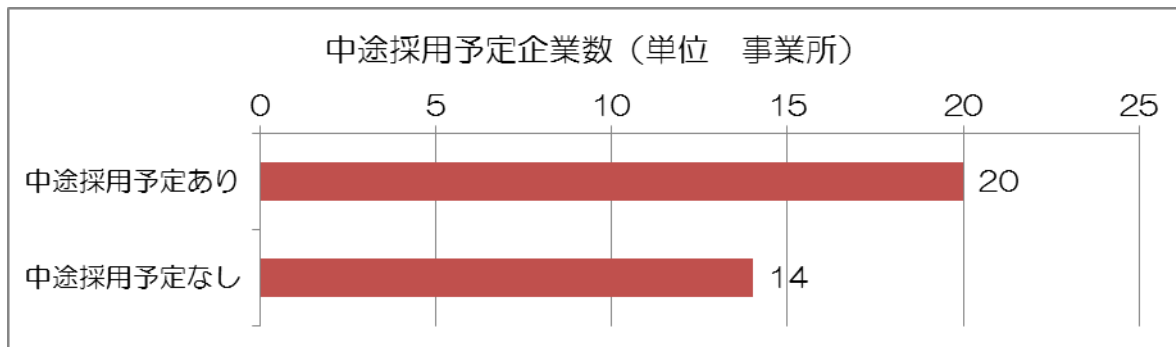
「大卒人材」(48名)における「市内在住者」の採用人数は18名(37.5%)であり、「市外在住者」は30名(62.5%)であり、市外在住者の比率が高い。

大卒人材における市内在住者数及び市外在住者数(単位 人)

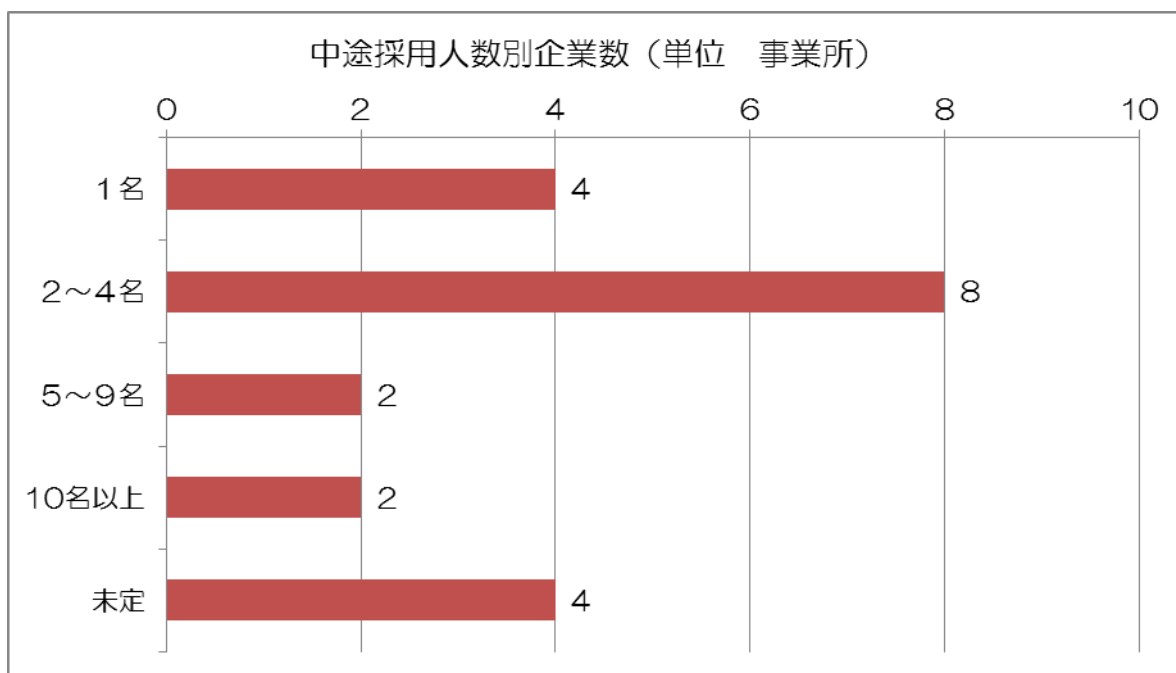


(2) 今後、中途採用の予定はありますか。また、ある場合は、人数を教えてください。

中途採用については、「中途採用予定あり」が20事業所(58.8%)、「中途採用予定なし」が14事業所(41.2%)である。

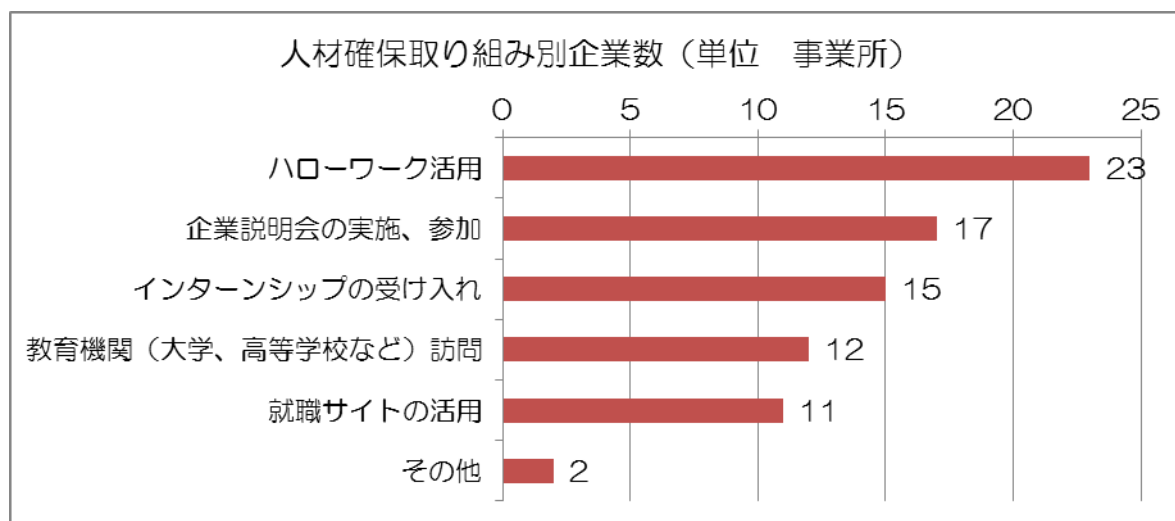


中途採用予定ありの企業は20事業所であるが、採用者数別の事業所数については、「1名」が4事業所(20.0%)、「2~4名」が8事業所(40.0%)、「5~9名」が2事業所(10.0%)、「10名以上」が2事業所(10.0%)である。  
また、「未定」が4事業所(20.0%)である。



(3) 人材確保のために行っている取り組みはありますか。(複数回答可)。

人材確保のための取り組みについては、「ハローワーク活用」が最も多く、「企業説明会の実施、参加」、「インターンシップの受け入れ」が続いている。「その他」の具体的な内容としては、外国人人材の確保のため東南アジアにある大学を訪問しているなどである。



(4) 採用にあたり、特に求める人材はどのような方ですか(自由記述)。

- 技術系大学生、高校生(機械系、食品系)
- 熟練技術者(機械系)
- 英語を話せる人材(機械系)
- デザイン系人材(機械系)
- 長期的に雇用できる人材(機械系、食品系)

(5) 採用方法で工夫している点、苦労している点があれば教えてください。

ア 工夫している点(自由記述)

- 所属する工業会を通じたPR(機械系)
- 企業説明会、インターンシップなど高等学校との継続的な関係性を築く(機械系)
- 技術系派遣会社の活用(機械系)
- 各校出身者によるOB訪問(機械系)
- 飲食店で知り合いを作り信頼関係を築いて、勧誘(機械系)
- 高校卒業者を継続して採用する(機械系)

イ 苦労している点(自由記述)

- 進学者が多く、高卒人材を確保できない(機械系、食品系)
- 人材の母数が減少している(機械系)
- パート人材賃金の高騰により、募集をかけにくい(食品系)
- 大卒人材の応募がない(機械系)